

聖書に触れたことで、
多くの気づきと出会いがありました

| 71期生(3年生) H.K |

マタイによる福音書 7章12節「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」は、人と関わる中で大切になる「思いやり」に気づかせてくれる箇所の一つだと思います。

グリーンキャンプでのディベートを通して、聖書の教えは現代社会にも通じることが多くあると実感しました。またレクリエーションを通して、今まで関わったことのなかった生徒や先生と仲を深めることができ、ここで出会えた友達は今ではかけがえのない存在となっています。さらに、世界ではキリスト教を信仰している人がとても多く、国家や文化とも深く結びつく宗教というものの理解は必要不可欠です。国際理解がより求められている今、宗教的対立が続いている地域があることなどから見ても、聖書を学ぶことはとても大切だと考えます。

コロナ禍で海外への行き来がしにくいような状況であっても、SNSを通じて国内外の人と繋がることができますが、気軽にやり取りができてしまうことによる弊害もあり、顔が見えないことをいいことに冷たい言葉を放ってしまったり、無意識でも相手を傷つけてしまうことがあります。コミュニケーションをとる中で互いをよく理解すること、相手の顔が見えなくても思いやりの心を持つことはなくてはならないことです。混沌とした世の中で、私たちは立ち止まって考えることや思いやりの心を忘れてしまいがちですが、どんなときでも無条件に道徳的に守るべき大切なことについて聖書や礼拝を通して触れることができます。高等部でのキリスト教との関わり、クラスメイト、先生との関わりは、何にも代えがたい有意義なものであると感じています。

「キリスト教教育」ing

page
05-06



「礼拝」も「聖書」も高校に入って初めて触れた大切な時間です。

BLUE PECOと私
対話を重ねて世界を知る

| 70期生(2021年度卒業生) T.C |

私は生徒自主学习団体「BLUE PECO」の代表として、Global issuesや東ティモールが抱える社会問題と向き合ってきました。東ティモールでは特産品であるコーヒーが安く買い取られ、貧困や格差が改善されていません。そこで私たちは、文化祭での「フェアトレードコーヒー販売」や「東ティモールとのオンラインイベント」を通じて問題意識を共有するとともに、コーヒーを対等な立場で購入することで、消費者だけでなく共同生産者として東ティモールの人々を応援しています。また高等部には、Global weekという世界の諸問題や共生について考える週が年に2回設けられているため、この期間を活用して、SDGsに対する私の考えや思いを発信しました。一人一人の意思決定が大きなムーブメントとなり、人や自然が共生できる希望ある未来に繋がる、すなわち、SDGsは未来への道を示すコンパスであると考えています。

東ティモールで活動するNPOの方、修学旅行で講演してくださった被爆者の方、宮古訪問プログラムで出会った東日本大震災の被災者の方々。私は多くの方と出会い、経験や体験を伺い、対話を重ねてきました。これらの出会いと対話により、「共に生きることは、互いの価値観や背景を知り、受け入れることから始まる」のだと知りました。また、対話を通じて問題に対する当事者意識を持つよう努めてきました。大学ではグローバルガバナンスや環境政策を学び、将来は人や自然環境に寄り添った国際協力を実行していく人になりたいと思っています。



「平和・共生」ing

page
09-10

STORYing

3年後のその先へとつながるものがたり

高等部には授業の枠を超えた多彩な活動があります。

クラブ活動、生徒会、国際交流、そして社会との関わり――。

生徒の数だけある活動の軌跡は、

一人ひとりの人生の糧となり、多様な将来につながっています。

日英の教育の違いを感じた
リースクールとの交換留学

| 70期生(2021年度卒業生) K.S |

英語が得意ではない僕が短期交換留学プログラムに参加したのは、日本語が通じない環境の中で自分は何が学べるかを試してみよう、と思ったからです。

交換留学先のイギリスのリースクールでは、国語や数学などの科目のほかに、英国伝統の「演劇」や、日本ではあり得ない「軍事教練」の授業がありました。「林の中で敵と遭遇したらどうするか?」という実地訓練で真剣な表情になったクラスメイトの顔を鮮明に覚えています。

また、ICTを用いた授業も新鮮でした。交換留学はコロナ禍の前で、そのとき日本ではICTはほとんど用いられていなかったため、日本で受けている授業との違いに驚きました。新型コロナウイルスの影響によりオンライン教育でスタートした2年生、一概にどちらが良いとは言えませんが、日本のICT教育はやっとならぬと追いついたのだと思いました。

イギリスの教育環境や文化を体験できたことは、自分の将来について考えるきっかけにもなりました。何も将来の進路を考えていなかった中で、外国と関わるというひとつの可能性を見つけられ、自分の進路の選択肢をひとつ増やすことができたと思います。まだ進路は決め切れていませんが、短期間でも海外に行けたという経験は、自分の人生において大きな価値を持つものであったと思います。



「ホストファミリー」とは
今でもよく連絡を取っています。

「国際交流」ing

page
07-08

「高大連携」ing

page
11-12



将来を見据えた学びを通して
視野も未来も大きく広がりました

| 70期生(2021年度卒業生) I.Y |

私は高等部入学前から、大学で「国際政治を学ぶこと」を目標にしていました。社会が大好きな私は、多国間の問題を捉えた上で日本を見つめ直し、将来の夢を探そうと考えていたからです。そのため、放課後に青山学院大学の授業を履修できる制度を利用して、国際政治経済学部「開発入門」を受講しました。今まで、国際政治は歴史的・文化的側面から捉えるものだ、と決めつけていた私にとって、世界の現状を経済学から読み解いていくことは極めて刺激的でした。同時に、数値を伴う故に現実的で衝撃的な事実は私の知らない世界の裏側の存在に気付かせてくれました。自分の想像とは桁違いな数値が並んだ情報には目を見張りました。もちろん、日々世界のニュースに対してアンテナを張っていれば得られる情報であったかもしれませんが。しかし当時その習慣がなかった私にとっては、意識を変化させてくれる非常に大切なきっかけとなりました。このことから、私は国際政治経済学部の経済学科で学びたいとさらに強く意志を固めました。試験のために知識を詰め込むような勉強ではなく、将来を見据えた学びはワクワクするものです。そして同時に、自分の視野を大きく広げてくれます。私は、大学と連携して授業を履修することは未来の自分の指針を立てるために役立つと強く感じます。高等部での経験を糧に、大学ではより多くの知識を得て学びを深められるように努め、幅広い視野を培ってグローバルに活躍できる人になりたいです。



キリスト教教育



WEB「キリスト教教育」ページ

真実を求める心を培い、 神や人生について深く考える力を育てる。

キリスト教教育は、米国メソジスト教会の宣教師によって建てられた
青山学院の教育の根幹をなすものです。
生徒たちがキリストの愛に触れ、自己の生き方を見つめ、
隣人を愛し社会に貢献できる人として巣立ってくれることを願っています。

人生の道標、心の支えになる聖書のことば

宗教主任 山元克之

「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の御言葉があります。自分を愛し隣人を愛するとはどういうことか、学校生活の中には常にその問いが溢れています。本校ではキリスト教の信仰を押し付けることはありません。しかし長い人生で壁にぶつかったとき、何かを選択しなければならないときに、心の引き出しから取り出して、支えや道標になるはずで



神の愛を感じる毎日の礼拝

全校生徒と教職員がともに講堂に集い、聖書の御言葉(みことば)を通して自らを振り返る毎日の礼拝は、この学校が最も大切にしている時間です。
週一回、各クラスで行われるホームルーム礼拝では、生徒が司会、奨励(話)、奏楽等を担当し、クラスメイトの言葉に耳を傾けます。

週に一回の「聖書」の授業

青山学院の教育の土台は聖書の御言葉です。そして、この御言葉を学ぶ時間が「聖書」の授業です。授業では、聖書を手に取り、自分自身について、また隣人について考え、神と私たちとの生きた関係について学びます。また、さまざまな切り口から聖書を紐解くと、自分自身の生き方を考えるだけでなく、キリスト教を信仰する世界の人々の価値観を理解することができます。

キリスト教に触れる様々な行事

夏休みのグリーンキャンプ、冬休みのホワイトキャンプは、大自然の中で仲間との親睦を深め、聖書を学び、神様や人生について考える機会です。また、クリスマスやイースター、特別礼拝などを通して、キリスト教の伝える真理に深く触れていきます。



ホワイトキャンプの様子



聖歌隊

キリスト教教育活動に関わるクラブ

オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部は礼拝での奉仕をする特設クラブです。聖歌隊は外部の合唱コンクールでも活躍し、オルガン部から音楽大学に進学する生徒もいます。ABF(聖書交友会)は聖書が語りかけるメッセージに耳を傾けるクラブ活動です。



国際交流



WEB「国際交流」ページ

国や文化の違いを超えて、他者を理解し支援することのできるサーバントリーダーを育てる。

本校の国際交流が目指すものは、「価値観の多様性 (diversity) の共有」です。これは、世界中の人々が「愛と平和」のうちに互いを認め合い、共に生きるというイエス・キリストの教えに根差したものです。本校はその思想を実践し、グローバル化の時代に対応できる人間の育成に励んでいます。

Teacher's Voice

多様性の受容は青山学院の伝統です。

「ダイバーシティ」という言葉が一般的になる前から、青山学院には多様性を受容する空気が流れていました。さまざまなバックグラウンドを持った生徒が同じホームルームで学び、お互いを認め合っています。本校の国際交流プログラムは、隣人の価値観を認めながら、進んで人と社会に仕え、その生き方が世の光となる人、「サーバントリーダー」を育てることを目指しています。

短期交換留学プログラム (学校間交流)

英国ケンブリッジの名門パブリックスクールであるリースクール、ルネサンスの文化を色濃く残すイタリア・ミラノ郊外にあるレニャーニ校との間で姉妹校提携を結んでおり、それぞれ数名の生徒による約2週間の短期交換留学を実施しています。ホームステイや現地校の寮で生活しながら、授業や課外活動などのアクティビティに参加しています。

カナダ・ホームステイ

夏休みに2週間、約30名でトロント市近郊のベリー市を訪問します。地域の施設 (老人ホーム・YMCA等) の訪問、チャリティー活動、ナイアガラの滝見学、大リーグ観戦、カヌー体験など様々なイベントが用意され、異文化や大自然を体験できるだけでなく、英語力を試す格好の機会となっています。

長期海外留学

学外の各種留学斡旋機関の派遣などによって1年間の長期海外留学をする場合に、休学またはそれに準ずる手続きを経て高等部に復帰することが可能です。帰国後に同じ学年に戻る第一種留学と、年下の学年に戻る第二種留学の二種類の制度があります。年間で平均して10~15名程度の生徒がこの制度を利用しています。

帰国生教育

本校は1970年代から、毎年一定数の帰国生を受け入れてきました。帰国生は普通のクラスに入り、異文化の体験者として周囲に影響を与えてくれます。一方、帰国生が円滑に学校生活に順応できるよう、国際交流員の教員が「アドバイザー」となって、学校生活や学習の問題の相談に個別に応じる体制を整えています。



長期留学生受け入れ

毎年数名、海外からの長期留学生を引き受けています。英語圏出身だけではなく、さまざまな国や地域出身の留学生がいます。留学生はホームルームに所属してクラスメイトと共に授業に出席し、学校行事やクラブ活動にも参加します。長期留学生から各国の文化や価値観、政治経済、他国から見た日本について学ぶことも多く、留学生は国際理解の重要な役割を担っています。



平和・共生



WEB「平和・共生学習」ページ



「平和を願う人」から「平和を実現する人」へ。

過去を見つめ、現在を知り、未来を描く。

これが、本校の平和・共生教育の理念です。

「他者と共に生きる」のは決して易しいことではなく、

現実には複雑な問題が山のようにあります。その山積みの問題から

逃げ出さずに、新しい知識と出会い、人と出会い、試行錯誤することで、

ジグソーパズルを組み立てるように未来を創造する力を養います。

「会いに行く」から、はじめよう。

平和・共生教育を支える力は、生徒たちの自発性、探究心です。フィリピンや東ティモール、岩手県宮古市などの訪問プログラムに参加した生徒たちは、数々の出会いの中で、地域の課題や地元の人たちと話したことを「自分のこと」として悩み、考えるようになります。そして、考え抜いたアイデアを校内・校外で実行することで、さらに新しい学びや経験が生まれます。見栄えだけがよい支援活動ではなく、地道に、長期的に地元の人々と向き合ってきたからこそ見えてくる支援のかたちがあります。修学旅行でも同様に、長崎市の人々と出会い、インタビューや交流を通じて、平和やキリスト教などへの思いを受けとめることで生徒の心の中に未来への種火をともします。

Teacher's Voice

修学旅行を軸にした平和学習

本校の修学旅行は3泊4日で長崎から阿蘇までを中心に九州をまわります。特に長崎市では、「トロ神父と潜伏キリシタンの歴史を伝える」「長崎から世界への平和メッセージ」「長崎の歴史からグローバル社会を考える」など主題を設け、観光地を見学するだけではなく、新聞社への取材や放射線の研究施設への訪問、さまざまな専門家へのインタビュー、長崎市内の高校生や大学生とのディスカッション等を含む探究学習を行います。

岩手県宮古市の高校との交流

東日本震災の年から岩手県宮古市の高校との交流が続いています。現地を訪れ、被災地について、防災について直接肌で感じながら学ぶとともに、異なる地域・環境の高校生と一緒に考えながら交流を深めています。文化祭には、防潮堤で有名な田老地区の宮古北高校の生徒が来校し、コラボデザイングッズや特産ワカメのチャリティー販売を行うなど協力して活動しています。

青山学院フィリピン訪問プログラム

クリスマス礼拝での献金によってスポンサー(里親)支援をしているフィリピンの子どもたちに会いに行く訪問プログラムです。フィリピンで暮らすスポンサーチャイルドの家庭や学校、支援センターなどを訪問し、一緒に遊びながら、支援とはなにか、共に生きるとはどうすることなのか、といったテーマについて議論し、理解を深めます。青山学院初等部、中等部、大学と合同で行っている青山学院全体のプログラムです。

東ティモールスタディツアー

東ティモールのコーヒー生産農家を訪問するスタディツアーです。農村のフィールドワークを通じて教育、環境、医療などの地域の課題から、コーヒー産業とフェアトレードといったグローバルなテーマまでを広く研究します。この開発経済学の研究プロジェクトは、生徒自主学習団体BLUE PECOと協力して取り組んでおり、文化祭ではBLUE PECOによる研究報告、フェアトレードコーヒーの販売等を行っています。



LogBook

本校では、多くの授業の中で平和・共生に関するテーマを取り扱っています。理科では原子力や放射線について学び、現代社会では核兵器にまつわる国際的な議論、平和憲法のあり方などを学びます。また、聖書の授業ではキング牧師の生涯を、英語では映画「Invictus」などを通じて、様々な文化的背景を持つ他者と共生する社会の在り方について、思考を深めていきます。これらの学びは3年間を通して行われ、生徒はさまざまな教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノートである「LogBook」に学びの軌跡をまとめていきます。



▲国際政治学科の学生がつかむ国際社会：キューバ危機とシリア内戦を素材として(2019年度国際政治経済学部国際政治学科講座)



高大連携



WEB「高大連携」ページ

未来を見据えた学びで、可能性を切り拓く。

高校時代に触れる大学の学問は、
それぞれの専門分野の広さと奥深さを見せてくれます。
同じ敷地内に大学のほとんどの学部があるという
恵まれた環境を活かし、大学との連携を深め、
一貫教育のさらなる良き実りを得ることをめざします。

学問入門講座

土曜日の午前中に、青山学院大学・専門職大学院の教員が、それぞれ専門分野について高校生にわかりやすく講義をする「学問入門講座」を実施しています。生徒は自分の関心のある講座を自由に選び、大学での学問研究の面白さ、奥深さに触れることができます。



▲中世日本の宗教美術における「オリジナル」と「コピー」をめぐって(2019年度文学部比較芸術学科講座)



▲人に役立つ情報システムのつくりかた(2019年度社会情報学部講座)

2022 年度学問入門講座テーマ		
学部学科		講義テーマ
文学部	英米文学科	(複数の)「愛」についてーアメリカの詩を中心に
	フランス文学科	カナダのフランス語圏についてーケベック州を中心にー
	日本文学科	日本語教育を学ぶーことば・文化・共生ー
	史学科	イスラームと近代、アジアの近代
	比較芸術学科	元祖「ドレミの歌」とJ.S. バッハの《インヴェンション》
教育人間科学部	教育学科	本がつなぐ過去と未来ー図書館から眺める教育のかたちー
	心理学科	心理学でウソは見破れる? : 脳や身体から見る心
経済学部	経済学科	日本経済の持続可能性: 将来世代への負担とは何か?
	現代経済デザイン学科	グローバル経済の分析ー比較優位ー
法学部	法学科	生活と法、法学
	ヒューマンライツ学科	現代世界は「平和」か?ー国際関係論へのいざないー
経営学部	経営学科	商品開発を通じて企業行動の仕組みを理解する
	マーケティング学科	はじめての流通
理工学部	化学・生命科学科	微生物に学ぶ生命の不思議ー知られざる遺伝子機能の探索
	機械創造工学科	最先端技術における熟科学ー医療から宇宙までー
	情報テクノロジー学科	どうなる未来のコンピュータ?ー人とコンピュータの新たな関係
国際政治経済学部	国際政治学科	欧州統合の始まり、展開、そして危機
	国際経済学科	経済学+政治学=政治経済学: 経済と政治を一体的にどう理解するか?
	国際コミュニケーション学科	なぜ差別はなくなるのか?ー人を隔てる「We」と「They」
総合文化政策学部		デジタルカルチャー
		ケースで学ぶマーケティング(超入門)
		「都市学」とは何か。
社会情報学部		つくれるだけ・企画できるだけでは不十分ー情報システムをつくるにはー
		簡単な数学を使って、複雑な金融商品の価格を求めてみよう
		社会情報学部で学ぶ経営
地球社会共生学部		人権保障の歴史的背景と今日の日本と世界における人権保護状況
		ジャーナリズムの「モノを見る目」
コミュニティ人間科学部		図書館でまちづくり?ー地域と図書館の新しい関係
国際マネジメント研究科		多様な家族を支える福祉って何?ー子どもの権利としあわせを考える
会計プロフェッション研究科		サステナブルファイナンス
キリスト教関連科目		自由市場経済における情報の役割
		すべての人の善い社会を目指してーキング牧師の信仰とリーダーシップ

大学授業の履修

3年生の希望者が放課後に青山キャンパスの大学の授業を履修して、内部進学した際にその単位が認められるという制度があります。大学生と一緒に場で授業を受けることは、「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上につながると期待しています。

国際理解・留学準備プログラム

早い時期から海外への関心を高めてグローバル感覚を養うことを目的として、大学国際交流センターと共催で以下の3つの特別講座を設けています。

- 海外体験の魅力やグローバル化への対応等の講義を含む「総合オリエンテーション」
- 海外留学の際に必要とされる英語検定「IELTS (アイエルツ)」の対策講座
- 大使館担当者が、自国文化の紹介や日本との繋がりなどを英語で講義する「大使館講義シリーズ」



▲大使館講義(フィリピン)



青山学院大学学部学科・大学院研究科 一覧

大学	
文学部	英米文学科
	フランス文学科
	日本文学科
	史学科
教育人間科学部	比較芸術学科
	教育学科
経済学部	心理学科
	経済学科
法学部	現代経済デザイン学科
	法学科
経営学部	ヒューマンライツ学科
	経営学科
国際政治経済学部	マーケティング学科
	国際政治学科
総合文化政策学部	国際経済学科
	国際コミュニケーション学科
理工学部	総合文化政策学科
	物理科学科
地球社会共生学部	数理サイエンス学科
	化学・生命科学科
コミュニティ人間科学部	電気電子工学科
	機械創造工学科
社会情報学部	経営システム工学科
	情報テクノロジー学科
地球社会共生学部	社会情報学科
	地球社会共生学科
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科

大学院	
文学研究科	国際政治経済学研究科
教育人間科学研究科	総合文化政策学研究科
経済学研究科	理工学研究科
法学研究科	社会情報学研究科
経営学研究科	
専門職大学院	
国際マネジメント研究科	
会計プロフェッション研究科(会計専門職大学院)	